NITS弘前大学センター

令和７年度 充実期研修講座

組織で解決する力を伸ばす

チーム学校を支えるスクールリーダーのために

- 青森県教育職員研修計画の研修体系に位置付けられた講座です。
- 育成指標において充実期教員に求められる「マネジメント力」及び「指導力」の伸長を図ることを目的としています。
- 対象は、学校長の推薦を得た主として30代～40代の県内学校教員（教諭・養護教諭等）です。校種は問いません。
  参加を希望される方は、所属校の管理職にご相談ください。受講修了後、県教育委員会の研修履歴に記載されます。
- 教職大学院教員のコンサルテーションを受けながら、実際に勤務校においてアクション・プランに取り組みます。
  多忙な充実期の教員に配慮して、オンラインと集合研修（２日）を組み合わせて実施します。

プログラムの流れ（4～11月）

■主として30代～40代の教諭・養護教諭で校長の推薦を受けた方は、パンフレット末尾の方法で申込フォームに必要事項を記入して送信してください。連続する２年まで参加可能です。

■４月に参加者を決定して受講決定通知書をお送りし、オンデマンド動画でガイダンスと講義を配信します。

■ガイダンスで指示された組織分析と人材育成のワークに各自取り組んだ上で、５～６月にオンライン協議を行います。これらを通して、俯瞰して学校現場を見る視点を養いつつ、それぞれの勤務校をよりよくしていくためのアクション・プランを考えていきます。

■７月29日の第１回集合研修では、最新の教育事情に関する講義を聴くとともに、それぞれが考えたアクション・プランの案を紹介し合い、実際に進める上での課題や考えられる工夫について、教職大学院の教員も加わったグループで協議していきます。

■８月には、希望参加のオンラインの実践事例コンサルテーションが、４回程度開催されます（まったく参加しないことも、すべて参加することも可能です）。昨年度の参加者が実施したアクション・プランについて話を聞き、その上で、各自の進めるアクション・プランのヒントになるような協議を行います。また、「インクルーシブ教育システムにおけるマネジメント」のオンデマンド講義の配信と、それを受けた自由参加のオンライン・コンサルテーションも行います。

■９～10月は、複数日程で設定されているオンラインのコンサルテーションに、参加者が都合のよい日時を選択して参加します。１回は必ず参加、希望する方は２回まで参加できます。それぞれのアクション・プランの進捗状況を確認しながら、教職大学院教員が助言を行います。

■11月27日の第２回集合研修では、それらのアクション・プランの実践報告を行うとともに、組織の中核を担う世代に求められるものについて協議していきます。

アクション・プランの実践事例

令和６年度のアクション・プラン実践事例から４つを紹介します。

●《地域人材と連携した体力アップづくり》 青森県立保健大学理学療法学科と連携して、送ってもらった準備体操の動画をいつでも見られるように教員で共有したり、学生と教授に小学校に来てもらって体の使い方（ボール投げ、立ち幅跳び、50メートル走）について指導してもらったりした。児童は身近なお兄さんお姉さんから楽しく学び、保護者にも保健だよりで周知して体力づくりへの意識をもってもらうことができた。来年度も継続する価値ある取り組みとなった。

（青森市立浜館小学校・小笠原聡子先生）

●《研修のICT化で共有！授業改善！働き方改革～広域ネットワークへの挑戦～》 GoogleクラスルームにICTを活用した実践例を共有することで、教員がいつでもどこでもスマホがあれば学び、資料も活用できる体制を整えた。2年目の取組で、昨年度からさらに発展させ、弘前地区中学校教育研究会視聴覚部会を中心に、県内の中学校教員、弘前市中学校長会、弘前市教育委員会、青森県総合学校教育センター、弘前大学教職大学院、学習支援クラウドを提供する企業とも連携し、全国の先進事例にアクセスすることができるようにした。

（弘前市立南中学校・蒔苗康弘先生）

●《ベテラン教員と若手教員による座談会》 多忙化により職員室での雑談が少なくなっている現状を踏まえて、ベテラン教員と若手教員による座談会を企画した。若手からは「20年後などの長期的スパンで自分がどう成長できる可能性があるのか道筋が想像すらできなかったが、新たな視点に気づくことができた」「悩みやミスを共有できて気が楽になった」という声が寄せられた。ベテラン教員が望む教師像と若手教員がなりたい教師像には違いもあるかもしれないが、「本校の目指す生徒像」を共有し、若手教員を支援できるようにしていきたい。

（青森県立弘前中央高等学校・三浦梓先生）

●《地域交流の推進～市民センターまつりでの作業学習製品販売活動を通して～》 「油川市民センターまつり」で、作業学習で製作した作業製品（テイネイブランド）の販売活動を行い、地域の中で自分たちの活動を発信する機会を持った。販売した生徒たちは、多くのお客様から「どうやって作っているの？」「素敵な製品ですね」と声をかけていただき、日ごろの活動の成果を実感していた。積極的な発信により、本校について地域の人に知っていただく機会とすることができた。

（青森県立青森第一高等養護学校・工藤信子先生）

令和６年度参加者の声

これまでは誰かが変えてくれるだろうと思っていたが、自分から行動し変えるべき点は変えていかなければならないと思えるようになった。この研修がなければ、本気でアクション・プランを実施することはなかったし、若手教員への接し方についても寄り添って支援するという視点は得られなかったので、とても充実した研修だった。

研修が進んでいく中、一番刺激となったのは校種の異なる先生たちの取組であった。特に、特別支援学校の先生たちの常に児童・生徒を真ん中に据えて考える姿勢は素晴らしいと思い、とても参考になった。私自身の取組も、満足のいくものではないが、最後にたどり着く先は、「生徒のために何ができるか、何をすべきか、何をやらないか」だと感じた。

アクション・プランを実現させるべく動き始めた時、合意形成をはかるための対話、関係各所との調整を図ったりしたが、それはミドルリーダーに必要な力そのものだと感じた。合意形成を図っていく中で、生徒たちにどのような力を付けてほしいか、生徒にどのような学びが必要かを話し合った時が、このプランの最大の山場だったと感じる。教員間で同じ方向を向き、「生徒のために」動いている実感を久々に体感することができた。

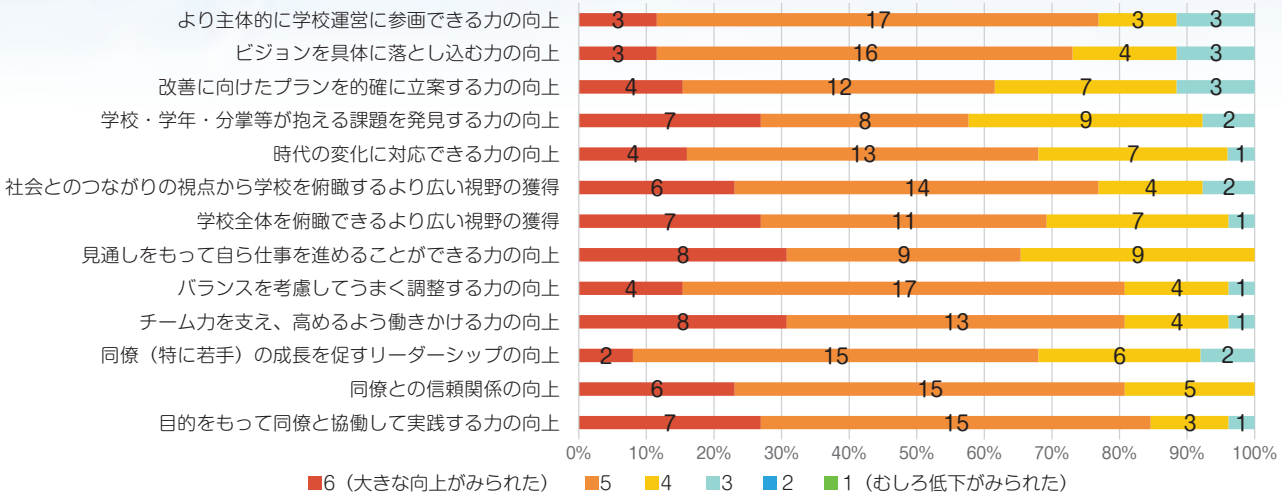
今日までの半年間、私のアクション・プランを遂行できたのは、本校の先生方のおかげです。本校の強みに気付き、生かして取り組んだ結果、複数の先生方と共に授業を作りあげる楽しさ、子どもたちが成長する喜びを味わいました。そして、困難にぶつかったときには、様々な視点でゴールまでの道のりを応援してくれる仲間や上司の先輩方の存在を感じ、自分の中で教師としての在り方を見つめ直すことができました。

自分の仕事だけをこなしていく時期が過ぎ、伝える、育てる、共に授業や分掌の仕事に取り組むことが増えていくと実感しています。そのために、柔軟な調整力を身に付け、組織の中で自分の役割を果たしていきたいと思います。自分が思いもしないことだとしても、求められ、機会を与えていただいたことをチャンスだと思い、何事にも前向きに取り組もうと思える思考になりました。

研修が始まった時点では、学校をより良くしていくにはどのような「方法」が必要かと、方法そのものを主として考えていた。しかし、研修を重ねていくことで、方法が大切なのではなく、そこに至るまでの過程やコミュニケーションこそがより重要だと考えるようになった。多忙を感じる現場の中で、先生方一人一人が力を発揮できる状況を作ることが第一であり、取り組み方は無数にある。先生方も、子どもも、何より自分が「楽しい」と思えるように調整していく、こういった力こそ、ミドルリーダーとして必要だと今は考えている。

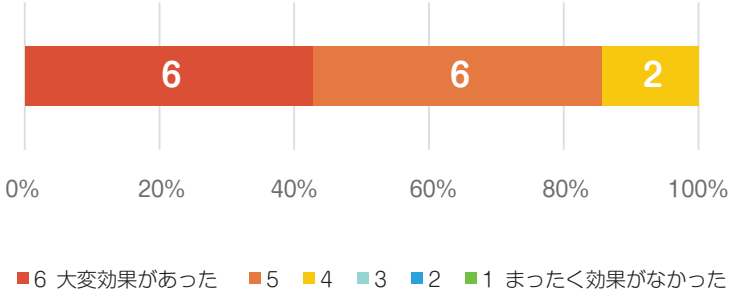
令和６年度参加者の自己評価

充実期研修講座を通して向上した資質・能力（６段階・無記名）



令和５年度所属校校長による評価

充実期の教員の資質向上への効果（６段階・無記名）



- 他校種の意欲のある先生方との研修が、本人への教職に対する考え方の広がりや深まりのみならず、人間的な成長に関する糧となった。
- 教諭自身がミドルリーダーとして学年や学校全体を俯瞰する視点を持ち、積極的に発信をしてくれた。また、学校外での学びの機会があるということが、次に続く教員にとってのモチベーションともなっている。
- 研修のために新たに何かに取り組むのではなく、自分の校務分掌を見直しながら取り組めるという仕組みは、充実期の教員に対するOJTとして、大変効果がある。
- 対象教諭の研修内容が児童生徒の指導等に直接かかわるものであったことで、研修成果を学校運営に反映させることができた。

日程及び内容

3月10日～4月11日 ※NITS中央研修と同時期		受講希望者の申込（申し込み方法は下記参照）
4月中旬		受講決定通知書とオンデマンドの案内を送付
4月中旬～5月上旬		**オンデマンドによるガイダンスと講義 1時間30分** ●ガイダンス ●講義「令和の日本型学校教育とLearning Compass 2030」 **研修動画視聴30分＋ワーク 1時間30分程度** 〈いずれも勤務校で各自の都合に合わせて実施〉
5月8日（木） 15:00～16:00		**受講生・教職大学院教員顔合わせ**（オンライン）
5月	後日提示する3つの日程から選択	**協議**（オンライン） ●勤務校の内外環境の分析ワークを踏まえた協議 ●アクション・プランのアイディアの共有
6月	後日提示する3つの日程から選択	**協議**（オンライン） ●人材が育つ学校づくりワークを踏まえた協議 ●アクション・プランのアイディアの共有
7月29日（火） 9:30～16:00 八戸ユートリー		**第1回集合研修**（対面） ●講義「子どもや家庭の背景と外部連携のために」 ●講義「勤務校で新たな実践を作り出すために」 ●グループ協議「アクション・プランを語り合おう」
7月末		**オンデマンドによる講義** ●インクルーシブ教育システムにおけるマネジメント」
自由参加 ※	8月 5回実施 各1時間30分	**実践事例を踏まえたコンサルテーション**（オンライン・4回） 事例提供：昨年度受講生、教職大学院修了生等 ●「インクルーシブ教育システムにおけるマネジメント」 コンサルテーション（オンライン・1回）
8月下旬～11月中旬		**各勤務校にてアクション・プランの実践**（各自）
9月～10月 複数日程から1～2回選択		**教職大学院教員によるコンサルテーション**（訪問又はオンライン）
11月27日（木） 9:30～16:00 八戸市総合教育センター		**第2回集合研修**（対面） ●アクション・プランの実施報告と協議 ●講義「学校組織の変容に向けて」 ●協議「ミドルリーダーとして組織を動かすときに重要なこと」 ●省察「研修をとおした自身の変化とこれからの5年」

※ 自由参加については、参加しないことも、複数選択することもできます。 ※ 参加無料です。集合研修の旅費は当方で負担いたしません。

申し込み方法

右記二次元コードから直接、又は教職大学院HPの充実期研修講座申込フォームにアクセスし、必要事項を入力して申し込んでください。

令和7年度
充実期研修講座
申込フォーム

弘前大学教職大学院HP https://www.edu.hirosaki-u.ac.jp/gs/pdotteachers.html
画面左の「研修講座申込」から「充実期研修講座申込フォーム」へ

申込期間：令和7年3月10日～4月11日

主　　催／NITS弘前大学センター　青森県教育委員会
後援（予定）／青森県小学校長会　青森県中学校長会
青森県高等学校長協会　青森県特別支援学校校長会

お問い合わせ先
NITS弘前大学センター事務局
Email : nits-hirosaki@hirosaki-u.ac.jp　Tel: 0172-39-3333